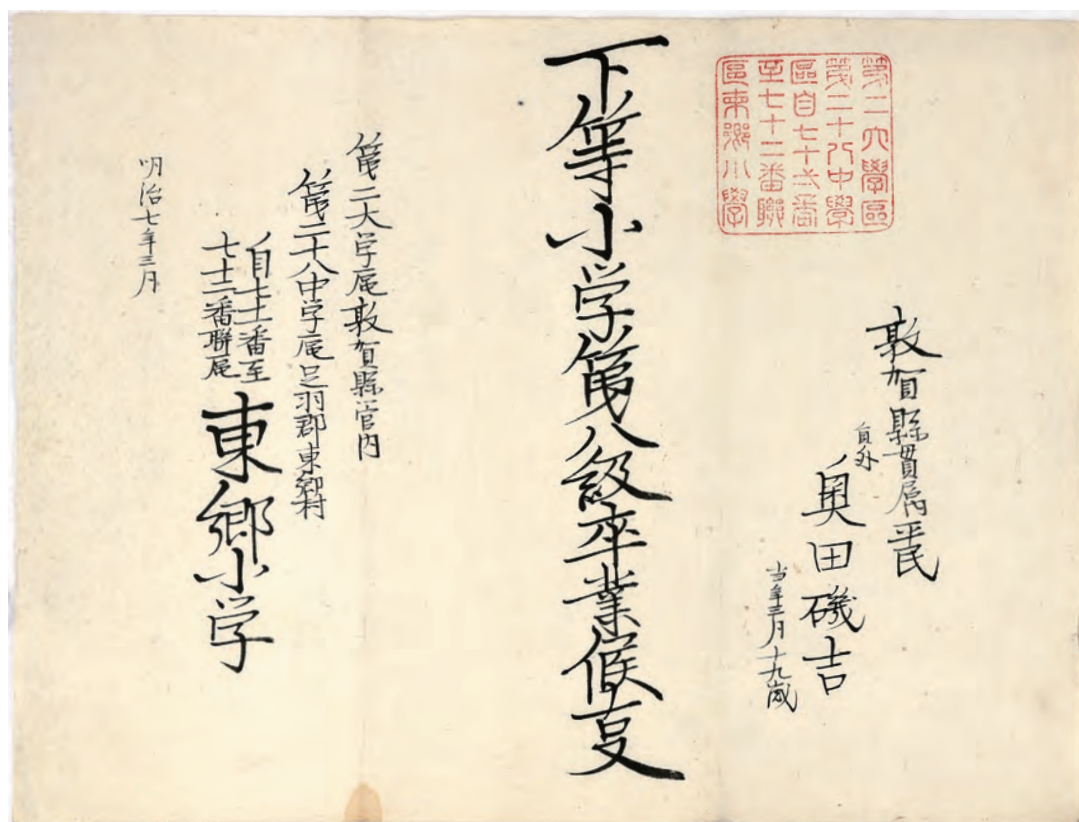


文書館だより

Fukui Prefectural Archives



▲「(下等小学卒業証書、第1級~第8級)」(第8級分) 1874年(明治7)3月(奥田与兵衛家文書 A0179-00360 当館蔵)

第30号 目次

特集「開館20年のあゆみ」	2
歴史的公文書紹介	6
寄贈資料紹介	7
お知らせ	8

第30号

2022.12

福井県文書館

特集

開館 20 年の あゆみ

2003年

平成 15

- 2月 開館
- 4 「記録資料アドバイザー」と「資料調査員」を設置
- 6 「古文書入門講座」を開始
- 10 「古文書読解講座」を開催（「古文書読解グループ」へ発展）

現在も春に「くずし字入門講座」として開催中

全国で 28 番目の
都道府県公文書館

2004年

平成 16

- 3 福井豪雨で被災した水損資料を応急処置
- 3 『福井県文書館研究紀要』を創刊
- 7 運営懇話会を設置

2005年

平成 17

- 3 「福井県文書館資料叢書」を創刊
- 6 「古文書初級講座」を開始
- 7 高校で出張授業を実施
- 11 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会を開催

現在も秋に「くずし字初級講座」として開催中



現在も年に 1 回開催中

2006年

平成 18

- 4 「古文書読解グループ」が活動を開始
- 5 閲覧室内で原本展示を開始
- 7 「資料保存研修会」を開始

2007年

平成 19

- 10 歴史的公文書の閲覧を審査後公開から申込後審査に変更
- 12 「福井県中学生郷土新聞コンクール」との連携を開始





現在「デジタルアーカイブ福井」で公開している資料画像の礎



2008年

平成 20

2

開館5周年記念講演会「中世越前の諸地域について」を開催
(講師・松浦義則氏)

3

文書館情報システムをリニューアル

4

展示パネルや複製シートの貸出を開始

4

活字化ボランティアが活動を開始

4

マイクロフィルムから資料画像のデジタル化を開始

2010年

平成 22

4

化学薬剤を使用しない「二酸化炭素殺虫処理」を導入



2011年

平成 23

3

「福井県行政資料管理規程」が改正
(行政資料の送付先に文書館長が追加)

12

累計利用(入場)者数が10万人を突破

2012年

平成 24

4

「福井県教育委員会行政組織規則」が改正(総務部の出先機関から教育委員会へ(福井県立図書館の附置機関に))

4

「フィアラ先生の世界をつなぐセミナー」を開始(講師・カレル・フィアラ副館長(当時))

11

史料管理学研修会「アーカイブズ・カレッジ短期コース」を開催(国文学研究資料館との共催)

2013年

平成 25

2

開館10周年

3

開館10周年記念講演会「豪農一家にとつての近代―杉田仙十郎と定一夫妻―」を開催(講師・家近良樹氏)



現在も「優秀作品展示」や「郷土新聞づくりポイント講座」で連携継続中



特集 開館20年のあゆみ



現在もデータを追加中



2014年

平成26

5月

11 「地域史実践プログラム」を実施（福井大学教育地域科学部との連携企画）

2 記録資料アドバイザーによる「専門講座」ふくいの記録資料を読み解く」を開始

2 文書館情報システムをリニューアル（「目録データベース」から「デジタルアーカイブ」へ）、資料画像の公開を開始

2 県立図書館の貴重図書・特別文庫とマイクロフィルムの出納窓口・閲覧場所を文書館閲覧室に変更

2 調べものための検索サービス「レファレンス協同データベース」に参加

6 3館共通の「福井県立図書館・文書館・若狭図書学習センター利用カード」へ切りかえ

2017年

平成29

5

ウエブサイトでオープンデータ「学校向けアーカイブズガイド」の公開を開始

4

「福井県史」編さん事業で調査・撮影した資料を主対象とした「資料所在確認調査」を開始

2018年

平成30

1

国立公文書館所蔵資料展「明治日本とふくいの軌跡」を開催（国立公文書館・福井県ふるさと文学館との共同主催）

2

資料整理ボランティアが活動を開始

4

累計利用（入場）者数が20万人を突破

2019年

平成31
令和元

3

「福井県行政資料管理規程」が改正（インターネット資料の保存・公開を開始）

4

「福井県文書規程」が改正（歴史的公文書が廃棄決定後の収集から移管決定後の引渡に変更）

4

文書館情報システムをリニューアル（「福井県文書館・図書館・ふるさと文学館デジタルアーカイブ」から「デジタルアーカイブ福井」へ）





現在も展示にあわせて開催中

各機関収蔵資料の目録や画像を公開(連携機関拡大中)



2020年

令和2

2021年

令和3

2022年

令和4

2023年

令和5

- 6 「デジタルアーカイブ福井」が国立公文書館の横断検索との連携を開始
- 7 「松平文庫テーマ展」を開始
- 11 福井藩の藩政資料や国書・漢籍からなる「松平文庫」が寄託(県立図書館から寄託先が変更)
- 12 職員によるトークイベント「ゆるっとトーク」を開催

現在も定期的に新テーマで展示を開催中

- 2 ウェブサイトで職員によるコラム「コラム#ふくいの記憶に出会う」の輪番連載を開始
- 3 「デジタルアーカイブ福井」が県内機関との連携を開始
- 4 「デジタルアーカイブ福井」で公開
- 4 「デジタルアーカイブ福井」が国立国会図書館サーチとの連携を開始
- 10 「デジタルアーカイブ福井」がジャパンサーチとの連携を開始

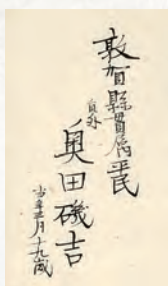
- 3 オンラインで歴史資料を翻刻する市民参加型のプロジェクト「みんなで翻刻」との連携を開始
- 12 福井県立図書館・文書館・ふるさと文学館の3館で「Library of the Year 2021」優秀賞受賞(主催:NPO 法人知的資源イニシアティブ)

- 4 「資料所在確認調査(第2期)」を開始
- 4 「文書館アドバイザー」を設置

- 2 開館20周年

■表紙写真■ 「(下等小学卒業証書、第1級～第8級)」(第8級分) 1874年(明治7)3月

奥田与兵衛家文書 A0179-00360 (当館蔵)



学制公布の翌々年、明治7年の東郷小学(現在の福井市東郷小学校)の卒業(進級)証書です。当時は半年ごとの試験に合格すると進級できました。

下等小学は第8級から第1級まであり、現在の小学1～4年生にあたります。第8級は最初の卒業証書で、下等小学を卒業するまでに8枚の卒業証書がありました。ちなみに奥田磯吉は当時19歳で、この時、第4級まで一気に進級して同時に第8～4級の5枚の卒業証書をもっています。さらに第3～1級も飛び級して、4か月後には下等小学を卒業しています。

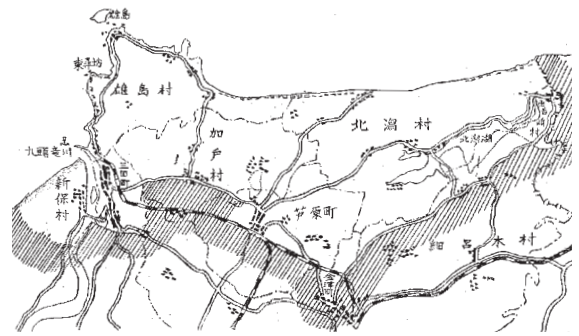
◆◆◆ 歴史的公文書紹介 ◆◆◆

“九頭竜”という名を冠した県立自然公園

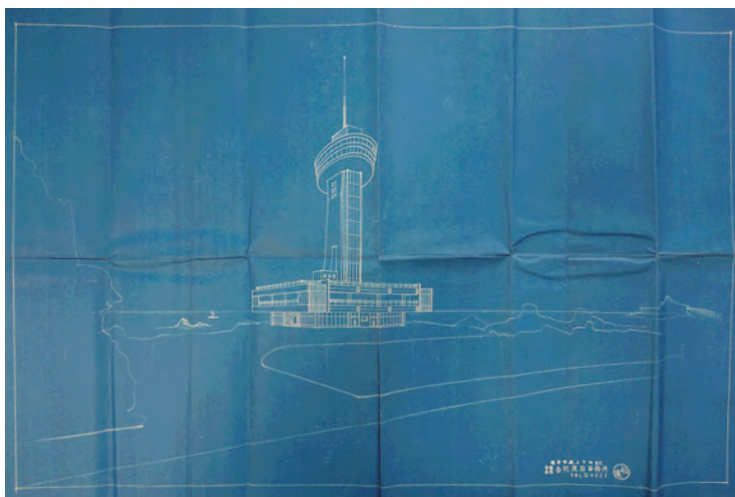
自然公園というと自然公園法に基づいた国立公園や国定公園を思い浮かべる人も多いでしょう。県でも、条例に基づき県立自然公園を制定しており、現在は奥越高原県立自然公園の1箇所があります。

ところで、「現在は」と申しましたが、かつては“奥越高原”のほかに“越前海岸”と“九頭竜”という名前の県立自然公園がありました。“奥越高原”と“越前海岸”の区域は、みなさまも想像がつくでしょう。では、九頭竜県立自然公園とはどのあたりになるかという、現在の坂井市三国町からあわら市にかけての区域で、有名な自然景観としては東尋坊があります(図1)。すでに1935年(昭和10)、文部省により東尋坊や越前松島など周辺の海岸線一帯は、名所的学術的価値が高いものとして名勝天然記念物に指定されていました。これが最初の県立自然公園として選ばれた理由でしょう。

昭和30年代、高度成長下の観光ブームで、自然景勝地を親しむための公園施設の事業整備が求められており、その頃に作成された「自然公園内事業認可(九頭竜県立自然公園)」というタイトルの



▲図1 九頭竜県立公園区域指定略図
「昭和27年福井県告示第3号(昭和27年1月10日付福井県報号外)」



▲図2 東尋坊タワー完成予定図
713「自然公園内事業認可(九頭竜県立自然公園)」

歴史的公文書には、休憩所・展望施設(東尋坊タワー、図2)、水族館(越前松島水族館)、宿舍(吉崎温泉ヘルスセンター)、ゴルフ場(芦原ゴルフ場)などが、自然景観に悪影響を与えないよう配慮して事業を認可した姿がみられます。これらの施設の多くは、その後制定された越前加賀海岸国定公園の区域に含まれ、現在も自然に親しむ行楽客を受け入れています。

(註) 昭和27年に区域指定された九頭竜県立公園は、昭和33年に条例名が福井県立自然公園条例に改正されたことにもない、九頭竜県立自然公園と名称が変更されました。

◆◆◆ 寄贈資料紹介 ◆◆◆

複製本ができたものから公開しています。

●坂井高等学校（松平試農場旧蔵）文書（C0130）

松平試農場は福井藩主であった越前松平家が創設した試験農場です。最後の藩主松平^{もちあき}茂昭の子康^{やすたか}荘（1867～1930）がイギリスのサイレンセスター王立農学校に留学し、帰国後の1893年（明治26）に福井城跡に試農場を設けました。

1922年（大正11）、福井城跡に福井県庁が建設されることになり、試農場は坂井郡細呂木村山室（現あわら市山室）に移転しました。その後の56年（昭和31）、試農場は坂井農業高等学校同窓会に譲渡され、所蔵していた図書類も同校に移管されます。

2014年（平成26）に同校と春江工業高等学校が統合、さらに金津高等学校の経理科と情報処理科、三国高等学校の家政科が合併し、坂井高等学校が開校しました。

寄贈資料は550点。松平試農場が作成した簿冊・刊行物と収集した蔵書類に分けられます。



▲「農事試験成績 第壹報（刊行物）」 C0130-00001

新たに公開した古文書紹介

前号紹介後に新たに公開した資料群は以下の通りです。（寄贈・寄託資料は除く）

- F0062 土屋得所家文書 鯖江市
- I0073 鈴木善左衛門家文書 大野市
- I0075 野尻源右衛門家文書 大野市
- X0520 東北学院大学所蔵史料文書 県外

資料所在確認調査を行っています

文書館では現在、福井県史を編さんする際に調査を行った資料所蔵者の方を対象に、資料所在確認調査を行っています。

今年度は美浜町・若狭町・おおい町・高浜町の4町で実施しています。来年度以降も同様の調査を県内の各市町で実施していく予定です。

アンケートによる調査のほか、資料所蔵者の方からの要望で資料の保管場所を訪問し、資料の状態を確認するための調査も行っています。

また、この調査をきっかけとして、各市町や当館などで緊急性の高い資料の調査や受け入れを進めています。

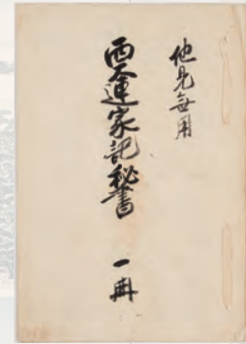
資料の保存方法の相談などは、お気軽に文書館までお問い合わせください。

■「デジタルアーカイブ福井」で小浜市・あわら市との連携を開始しました

2020年（令和2）4月に福井市立図書館・福井市立郷土歴史博物館と連携して「デジタルアーカイブ福井」で資料画像の公開を開始しました。その後、福井県立こども歴史文化館や福井県立若狭歴史博物館など、連携が拡大して「デジタルアーカイブ福井」参加館は増加してきています。

このたび11月17日、新たに小浜市文化交流課・あわら市郷土歴史資料館と連携して資料画像（一部は目録のみ）の公開を開始しました（資料は「酒井家文庫」（小浜市文化交流課所蔵）と「大連三郎左衛門家文書」（あわら市郷土歴史資料館寄託））。

今後も、“福井県のデジタルアーカイブ”を目指して、公開資料の充実に努めていきます。ぜひご活用ください。



▲「西大連家記秘書」1795年(寛政7)
大連三郎左衛門家文書 C0014-00016
(背景画像)「小浜城下鳥瞰図」年未詳
酒井家文庫 00057-20042

叢書発刊予定のお知らせ

今年度の『福井藩士履歴』11 福井県文書館資料叢書19は、令和5年3月末ごろ発刊予定です。昨年度に続く「新番格以下」（藩士のうちの卒身分）を対象として準備を進めています。既刊の資料叢書と同様に、ご希望の方には文書館閲覧室、あるいは送料実費負担にて配布します。

ご利用案内

■ 開館時間

午前9時から午後5時まで

■ 休館日

月曜日（国民の祝日は除く）
休日の翌日（土、日、休日は除く）
文書等点検期間（年間10日以内）
年末年始（12月29日～1月3日）
清掃整理日（4月・7月・12月以外の第4木曜日、祝日の場合は翌日）

■ フレンドリーバス（無料）をご利用ください。



※フレンドリーバスのバス停は図書館の敷地内

編集後記

今号の特集では、来年、2023年（令和5）2月1日の開館20周年にあわせて、福井県文書館の20年の歴史を年表形式でまとめました。21年目からも、引き続きよろしくお願いたします。



文書館だより Fukui Prefectural Archives 第30号

2022年（令和4）12月9日発行

編集・発行／福井県文書館

〒918-8113 福井市下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX 0776-33-8891

ホームページアドレス <https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/bunsho/index.html>

電子メールアドレス bunshokan@pref.fukui.lg.jp



健康長寿の福井